

講義コード	D360100101	科目ナンバリング	136F202	単位	2
講義名	博士論文指導(フランス文学専攻)				
英文科目名	Supervision for Doctoral Thesis				
担当者名	鈴木 雅生				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	D 1年～3年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 集中(通年) その他 集中講義				

授業概要

博士論文を遅滞なく完成させるために、資料収集の方法、論文の構成の仕方、具体的なテーマの選び方などを指導する。

到達目標

博士論文を完成できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	博士論文の書き方、概論
第2回	博士論文の書き方を口頭で指導
第3回	博士論文の書き方を口頭で指導
第4回	博士論文の書き方を口頭で指導
第5回	博士論文の書き方を口頭で指導
第6回	博士論文の書き方を口頭で指導
第7回	博士論文の書き方を口頭で指導
第8回	博士論文の書き方を口頭で指導
第9回	博士論文の書き方を口頭で指導
第10回	博士論文の書き方を口頭で指導
第11回	博士論文の書き方を口頭で指導
第12回	博士論文の書き方を口頭で指導
第13回	前期のまとめ
第14回	博士論文の書き方を口頭で指導
第15回	博士論文の書き方を口頭で指導
第16回	博士論文の書き方を口頭で指導
第17回	博士論文の書き方を口頭で指導
第18回	博士論文の書き方を口頭で指導
第19回	博士論文の書き方を口頭で指導
第20回	博士論文の書き方を口頭で指導
第21回	博士論文の書き方を口頭で指導
第22回	博士論文の書き方を口頭で指導
第23回	博士論文の書き方を口頭で指導
第24回	博士論文の書き方を口頭で指導
第25回	博士論文の書き方を口頭で指導
第26回	年間のまとめ

授業方法

原則対面による質疑応答

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に自分が抱えている問題を整理しておくこと

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート	70 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

面談によるフィードバック

講義コード	M360100101	科目ナンバリング	136F201	単位	2
講義名	修士論文指導(フランス文学専攻)				
英文科目名	Supervision for Master's Thesis				
担当者名	鈴木 雅生				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	M 1年～2年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 集中(通年) その他 集中講義				

授業概要

修士論文を遅滞なく完成させるために、資料収集の方法、論文の構成の仕方、具体的なテーマの選び方などを指導する。

到達目標

修士論文を完成できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	修士論文の書き方を口頭で指導
第2回	修士論文の書き方を口頭で指導
第3回	修士論文の書き方を口頭で指導
第4回	修士論文の書き方を口頭で指導
第5回	中間発表の準備
第6回	修士論文の書き方を口頭で指導
第7回	修士論文の書き方を口頭で指導
第8回	修士論文の書き方を口頭で指導
第9回	修士論文の書き方を口頭で指導
第10回	修士論文の書き方を口頭で指導
第11回	修士論文の書き方を口頭で指導
第12回	修士論文の書き方を口頭で指導
第13回	前期のまとめ
第14回	修士論文の書き方を口頭で指導
第15回	修士論文の書き方を口頭で指導
第16回	修士論文の書き方を口頭で指導
第17回	修士論文の書き方を口頭で指導
第18回	修士論文の書き方を口頭で指導
第19回	修士論文の書き方を口頭で指導
第20回	修士論文の書き方を口頭で指導
第21回	修士論文の書き方を口頭で指導
第22回	修士論文の書き方を口頭で指導
第23回	修士論文の書き方を口頭で指導
第24回	修士論文の書き方を口頭で指導
第25回	修士論文の書き方を口頭で指導
第26回	年間のまとめ

授業方法

対面による質疑応答、場合によりZoomによるオンライン面談

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に自分が抱えている問題を整理しておくこと(一時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート	70 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

面談によるフィードバック

講義コード	M360200101	科目ナンバリング	136F101	単位	4
講義名	フランス語学特殊研究(大学院)				
副題	フランス語の歴史的・地域的・多様な広がり				
英文科目名	Studies in the French Language				
担当者名	松村 剛				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 月曜日 3時限 仏文院生室				

授業概要

フランス語の歴史的、地域的な広がり多様性を理解していただくことを目的とします。そのために必要な道具を紹介し、それらを批判的に活用する練習をしていただきます。論文作成などのために知っておくべき基本的な研究倫理についても学んでいただきます。

到達目標

履修者各自の研究対象と関連させながら、フランス語の歴史的、地域的な広がり多様性を理解していただくことを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	Le Petit Robert の特徴と問題点
第2回	Le Petit Robert の批判的読解演習
第3回	Le Trésor de la langue française の特徴と問題点
第4回	Le Trésor de la langue française の批判的読解演習
第5回	Dictionnaire des onomatopées の特徴と問題点
第6回	Dictionnaire des onomatopées の批判的読解演習
第7回	Dictionnaire des jurons の特徴と問題点
第8回	Dictionnaire des jurons の批判的読解演習
第9回	Dictionnaire des régionalismes de France の特徴と問題点
第10回	Dictionnaire des régionalismes de France の批判的読解演習
第11回	Französisches Etymologisches Wörterbuch の特徴と問題点
第12回	Französisches Etymologisches Wörterbuch の批判的読解演習
第13回	Le Bon Usage の特徴と問題点
第14回	Le Bon Usage の批判的読解演習
第15回	Littré の特徴と問題点
第16回	Littré の批判的読解演習
第17回	Furetière の特徴と問題点
第18回	Furetière の批判的読解演習
第19回	Huguet の特徴と問題点
第20回	Huguet の批判的読解演習
第21回	Dictionnaire du Moyen Français の特徴と問題点
第22回	Dictionnaire du Moyen Français の批判的読解演習
第23回	Godefroy の特徴と問題点
第24回	Godefroy の批判的読解演習
第25回	Tobler-Lommatzsch の特徴と問題点
第26回	Tobler-Lommatzsch の批判的読解演習

授業方法

講義、演習。遠隔授業の場合は Teams を使用した同時配信型。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

事前に指示した箇所を読んでおくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	80 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

クラス参加、グループ作業の成果等:80%(積極的に授業に参加すること。) レポート:20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生のレポートその他は授業内でコメントし、授業の内容に反映させる。

教科書コメント

授業時に指示する。

参考文献コメント

授業時に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M360202101	科目ナンバリング	136F103	単位	4
講義名	◆フランス文学特殊研究(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)				
副題	フランス文学における非西欧世界				
英文科目名	Studies in French Literature				
担当者名	鈴木 雅生				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 木曜日 4時限 その他				

授業概要

近代以降の西欧を牽引してきたフランスにおいては、非西欧世界との相互交渉を通して、西欧にとっての「他者」というものが文学における表象として大きな位置を占めてきた。では、その「他者」である非西欧世界はどのように描かれてきたのだろうか。この授業では、まずアンリ・ミショーが『アジアにおける一野蛮人』(1933)で描いた日本の描写を読んだ後、各自の関心に応じてフランス人作家が非西欧世界(主に日本を想定している)を描いた作品について発表してもらう。

到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、その内容を文化的歴史的背景を含めて理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析してそれを説得的に他者に伝えることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	『アジアにおける一野蛮人』の訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(1)
第3回	『アジアにおける一野蛮人』の訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(2)
第4回	『アジアにおける一野蛮人』の訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(3)
第5回	『アジアにおける一野蛮人』の訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(4)
第6回	『アジアにおける一野蛮人』の訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(5)
第7回	学生による発表、ディスカッション(1)
第8回	学生による発表、ディスカッション(2)
第9回	学生による発表、ディスカッション(3)
第10回	学生による発表、ディスカッション(4)
第11回	学生による発表、ディスカッション(5)
第12回	学生による発表、ディスカッション(6)
第13回	前期のまとめ
第14回	後期ガイダンス
第15回	学生による発表、ディスカッション(7)
第16回	学生による発表、ディスカッション(8)
第17回	学生による発表、ディスカッション(9)
第18回	学生による発表、ディスカッション(10)
第19回	学生による発表、ディスカッション(11)
第20回	学生による発表、ディスカッション(12)
第21回	学生による発表、ディスカッション(13)
第22回	学生による発表、ディスカッション(14)
第23回	学生による発表、ディスカッション(15)
第24回	学生による発表、ディスカッション(16)
第25回	後期のまとめ
第26回	全体のまとめ

授業計画コメント

詳しい授業計画は初回授業時に配布する。

授業方法

演習形式の授業であるので、大筋を説明した後は、各自に発表してもらいながら授業を進める。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること(2-3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

教科書コメント

プリントを配布する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第一回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	M360300101	科目ナンバリング	136F104	単位	4
講義名	◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)				
副題	Production écrite				
英文科目名	Seminar in the French Language				
担当者名	DERIBLE, Alberic Dany Ser				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 火曜日 4時限 仏文院生室				

授業概要

Chaque séance de cours se déroulera en trois temps. Les étudiants mèneront tout d'abord une analyse des caractéristiques d'un genre particulier d'écrit et s'exerceront ensuite à manipuler les outils linguistiques qui lui sont spécifiques. Dans un troisième et dernier temps, ils produiront, avec l'aide de l'enseignant et sur le modèle du texte analysé en première partie, un exemple de cet écrit. Seront abordés au cours du semestre divers média tels que : la presse, la littérature et la correspondance.

到達目標

Se familiariser avec les différents genres d'écrit. Analyser les structures spécifiques à chaque type et s'y conformer lors de la production, tant au niveau de la forme (vocabulaire thématique et structures grammaticales) que dans le fond (les actes de parole exprimés). Les étudiants s'essaieront ainsi aux techniques de l'écriture journalistique, littéraire et de la correspondance.

授業内容

実施回	内容
第1回	L'ARTICLE DE PRESSE
第2回	Présentation des concepts opératoires pour l'analyse de texte
第3回	Le texte argumentatif
第4回	Les connecteurs logiques
第5回	La structure d'un article de presse
第6回	Le courrier des lecteurs
第7回	L'expression de l'opinion, le subjonctif
第8回	Un article pour le journal de l'université
第9回	Répondre à un éditorial, faire un commentaire sur un sujet d'actualité
第10回	Évaluation 1, Production écrite : donner son opinion sur un forum en ligne
第11回	LE ROMAN
第12回	Le synopsis
第13回	Les caractéristiques du roman
第14回	L'incipit
第15回	La concordance des temps
第16回	L'extrait de roman
第17回	Le passé simple
第18回	Le discours rapporté
第19回	Les règles de la ponctuation française
第20回	Évaluation 2 : présenter son roman préféré (synopsis et opinion)
第21回	LES AUTRES GENRES D'ECRIT (LE RECIT AUTOBIOGRAPHIQUE, LA LETTRE, LE MAIL)
第22回	Le souvenir
第23回	Le journal de bord, le récit d'aventure
第24回	L'imparfait et le passé composé
第25回	Les formules de politesse de début et de fin de correspondance
第26回	Le mail : accepter l'invitation d'un(e) ami(e), demander des informations sur une sortie

授業方法

Les classes se dérouleront en présentiel. Après une première partie consacrée à l'analyse des différents types de texte, les étudiants seront guidés dans leur production personnelle d'un type particulier d'écrit.

使用言語

日本語・French

準備学習(予習・復習)

Aucune préparation préalable n'est attendue des étudiants suivant ce cours, seules l'assiduité et la participation en classe sont obligatoires.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	90 %	3 évaluations par semestre de cours
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	Assiduité et participation en classe
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

L'évaluation portera principalement sur la production individuelle de trois types d'écrit : un texte argumentatif sur un sujet de société, le résumé et l'analyse littéraire et la correspondance officielle.

Le critère d'évaluation sera différent à celui des étudiants de Licence.

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

L'enseignant donnera un feed-back général sur les productions écrites des étudiants à chaque séance et donnera des conseils individuels selon les besoins et les problèmes de chacun.

教科書コメント

Aucun manuel ne sera utilisé dans cette classe. L'enseignant fournira pour chaque séance une fiche de travail idoine.

履修上の注意

履修制限あり。/第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	M360300102	科目ナンバリング	136F104	単位	4
講義名	◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)				
副題	日常言語について考える				
英文科目名	Seminar in the French Language				
担当者名	中尾 和美				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 火曜日 2時限 西2-304				

授業概要

言葉は力である。同じ伝達内容であっても、言葉の使われ方によって相手の反応も異なる。この授業では、日常的によく使用される言葉をさまざまに考察する。前期は、語用論的な視点から、身近な言語形式や表現を取り上げ、文脈や発話状況との関連から考える。後期は、社会と言語の関わりを外観する。具体的には、20世紀後半に始まった女性の可視化、公共表示や広告で使用される言葉を分析する。

定期的に参加者の発表を予定し、それがレポート執筆につながるように指導する。フランス語で書かれたテキストを随時読みたいと考えているが、学部と大学院の乗り合わせの授業なので、参加者の興味やレベルに応じて臨機応変に対応する予定である。

到達目標

フランス語の様々な表現を習得すること、言語分析を行うこと、ことば一般に対する興味を深めることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の説明
第2回	指令を与える
第3回	命令文
第4回	間接発話行為
第5回	尋ねる
第6回	疑問文
第7回	一人称代名詞
第8回	二人称代名詞
第9回	挨拶
第10回	お礼
第11回	授業発表(1)
第12回	授業発表(2)
第13回	授業発表(3)
第14回	包括書法と女性の可視化(1)
第15回	包括書法と女性の可視化(2)
第16回	包括書法と女性の可視化(3)
第17回	公共表示で使われる言説(1)
第18回	公共表示で使われる言説(2)
第19回	公共表示で使われる言説(3)
第20回	広告で使われる言説(1)
第21回	広告で使われる言説(2)
第22回	広告で使われる言説(3)
第23回	まとめ
第24回	授業発表(1)
第25回	授業発表(2)
第26回	授業発表(3)

授業方法

フランス語について講義をすると同時に、用例を分析し、議論していく演習方式。フランス語のテキストを読むこともある。参加者の発表も適宜行う。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

テキスト講読では、担当箇所を調べるだけでなく、全体を読んで内容を理解するようにしておくこと。授業発表では、他の参加者の

発表について活発に議論することが求められる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

クラス参加、グループ作業の成果等:(テキストの予習、授業における参画、発表。)単なる出席ではなく、授業への参加態度も成績評価の対象とする。

この授業は、学部生・院生双方が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業発表をレポート執筆に繋げる。

教科書コメント

授業で講読するテキストは、授業中に指示する。

参考文献

フランス語の発想,春木仁孝・岩男考哲,くろしお出版,2021

Les actes de langage dans le discours,C. Kerbrat-Orecchioni,Armand Colin,2008

Les formes de l'injonction écrite dans l'espace public,F. Lefevre ,Presses universitaires de Caen,2025

L'argumentation publicitaire,Adam J.M.&M.Bonhomme,Armand Colin,2012

L'implication du récepteur dans les énoncés de l'espace public,F.Dhorne,Peter Lang,2024

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること

講義コード	M360301101	科目ナンバリング	136F105	単位	4
講義名	◆フランス文学演習(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)				
副題	フランス近代文学読解				
英文科目名	Seminar in French Literature				
担当者名	田上 竜也				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 水曜日 4時限 仏文院生室				

授業概要

フランス現代作品の読解。テキストは履修者の関心に従い、相談の上決定する。フランス現代文学と現代思想の接点に位置するような作品をひとつないし複数選んで読む。『マルドロールの歌』第3歌を予定しているが、相談の上決定する。

到達目標

作品の正確な読解につとめるとともに、さまざまな解釈の広がり把握すること。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業概要の説明、テキストの選択
第2回	テキスト訳読(1)
第3回	テキスト訳読(2)
第4回	テキスト訳読(3)
第5回	テキスト訳読(4)
第6回	テキスト訳読(5)
第7回	テキスト訳読(6)
第8回	テキスト訳読(7)
第9回	テキスト訳読(8)
第10回	テキスト訳読(9)
第11回	テキスト訳読(10)
第12回	テキスト訳読(11)
第13回	前期まとめ
第14回	テキスト訳読(12)
第15回	テキスト訳読(13)
第16回	テキスト訳読(14)
第17回	テキスト訳読(15)
第18回	テキスト訳読(16)
第19回	テキスト訳読(17)
第20回	テキスト訳読(18)
第21回	テキスト訳読(19)
第22回	テキスト訳読(20)
第23回	テキスト訳読(21)
第24回	テキスト訳読(22)
第25回	テキスト訳読(23)
第26回	後期まとめ

授業計画コメント

大学院生及び、卒業演習履修者を主な対象とする。それ以外の学部生も履修可能だが、多すぎる場合は選抜する可能性あり。

授業方法

原則対面による演習形式だが、場合によりZoom使用。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

各自毎回数ページを読んでくること。とくに指名された箇所は、各版の注など読み込み、どのような解釈が可能か説明できるようにする。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

能動的クラス参加、グループ作業の成果等)70% 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム、飴も含む)、無断退出(必要な場合には必ず申告すること)、メールなどは大きな減点対象となります。レポート30%。
この授業は、学部生と院生が履修できるが、大学院生にはより高度な学修と成果が求められる。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内の発表内容をまとめたもの(配布資料含む)をレポートとする。

教科書コメント

テキストはコピー配布。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

主にメールを利用。

講義コード	M360301102	科目ナンバリング	136F105	単位	4
講義名	◆フランス文学演習(大学院)(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)				
副題	フランス自伝文学研究				
英文科目名	Seminar in French Literature				
担当者名	内藤 真奈				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 金曜日 4時限 北1-406				

授業概要

フランス語で書かれた自伝的文学作品を研究する。自伝、自伝的小説、回想録、日記、オートフィクションなど様々なサブジャンルを有する自伝文学というものを、実際の作品を対象とし、ジャンル論、言語学、物語論などの観点から文学における主体のあり方について検討する。

到達目標

調査やディスカッションを通して、主体的に知識を得、対象の理解を深めることができるようになる。
文学研究の手法に触れ、活用を試みることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	自伝文学について:ディスカッション、グループワーク
第3回	自伝文学について:グループ発表
第4回	自伝文学作品について:個人発表
第5回	文献の訳読:履修者による訳読発表、ディスカッション、教員によるコメント(1)
第6回	文献の訳読:履修者による訳読発表、ディスカッション、教員によるコメント(2)
第7回	文献の訳読:履修者による訳読発表、ディスカッション、教員によるコメント(3)
第8回	文献の訳読:履修者による訳読発表、ディスカッション、教員によるコメント(4)
第9回	文献の訳読:履修者による訳読発表、ディスカッション、教員によるコメント(5)
第10回	文献の訳読:履修者による訳読発表、ディスカッション、教員によるコメント(6)
第11回	文献の訳読:履修者による訳読発表、ディスカッション、教員によるコメント(7)
第12回	文献の訳読:履修者による訳読発表、ディスカッション、教員によるコメント(8)
第13回	前期のまとめ
第14回	前期レポートの講評
第15回	個人発表とディスカッション(1)
第16回	個人発表とディスカッション(2)
第17回	個人発表とディスカッション(3)
第18回	個人発表とディスカッション(4)
第19回	個人発表とディスカッション(5)
第20回	個人発表とディスカッション(6)
第21回	個人発表とディスカッション(7)
第22回	個人発表とディスカッション(8)
第23回	個人発表とディスカッション(9)
第24回	個人発表とディスカッション(10)
第25回	個人発表とディスカッション(11)
第26回	一年のまとめ

授業計画コメント

以上の授業計画は、履修人数、履修者の興味・理解度を考慮して修正することがある。

授業方法

演習形式

前期は自伝文学についてディスカッションを行いつつ、関連文献をフランス語で訳読し、理解することに挑戦する。

後期は履修者が各々選択した作品について個人発表を行う。前期の訳読を通して得た知識を応用して紹介・分析を行い、ディスカッションで理解・考察を深める。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

予習: 訳読課題の理解と訳文作成、グループ発表・個人発表の準備など。(1時間30分)

復習: 予習の段階で理解が不十分であった部分について、次の機会に応用ができるようにしておく。(30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	訳読、グループワーク、ディスカッションの参加度
その他(備考欄を参照)	20 %	個人発表

成績評価コメント

評価基準は目安であり、状況によっては変更する場合がある。

履修者の発表やディスカッションが中心的な活動となるため、積極的な参加が評価の対象となる。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや発表に対して、適宜、コメントや講評を行う。

教科書コメント

授業で扱う文献・資料は配布する。

参考文献

Le Pacte autobiographique: Poétique, Philippe Lejeune, Seuil, 1975, 9782020042932

Fiction et diction: Poétique, Gérard Genette, Seuil, 1991, 9782020128519

Est-il je ?, Roman autobiographique et autofiction: Poétique, Philippe Gasparini, Seuil, 2004, 9782020589338

自伝の時間 ひとはなぜ自伝を書くのか, 石川美子, 中央公論社, 1997, 4120027317

Le Journal intime: littératures modernes, Béatrice Didier, puf, 1976, 9782130528920

参考文献コメント

上記以外の参考文献、資料は授業時に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

初めて行うことが難しいと思われるのは当たり前のことです。

本授業では、難しいことに対してディスカッションを通してアプローチをしていく予定ですので、個々の能力にかかわらず積極的にテーマに取り組む意欲のある学生を歓迎します。

講義コード	M360302101	科目ナンバリング	136F106	単位	4
講義名	◆フランス演劇演習(学部:フランス語圏文化演習(舞台・映像))(大学院)				
副題	Tragédies bibliques (Suite)				
英文科目名	Seminar in French Drama				
担当者名	MARE, Thierry				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 木曜日 3時限 仏文院生室				

授業概要

Après "Abraham sacrificant" de Théodore de Bèze et "Les Juifves" de Robert Garnier, nous allons poursuivre l'exploration du théâtre religieux des XVIe-XVIIe siècle avec les deux dernières pièces de Jean Racine (1639-1699), "Esther" (1689) et "Athalie" (1691), composées à la demande de Madame de Maintenon pour l'édification des jeunes filles du Collège de Saint-Cyr.

到達目標

Ecrites plus de dix ans après "Phèdre" et le renoncement de Racine au théâtre (pour des raisons religieuses, politiques et sans doute aussi esthétiques), ces deux ouvrages présentent de notables différences avec les autres tragédies de leur auteur : en particulier la présence de parties chorales, commodes pour employer le plus grand nombre de jeunes élèves à la représentation, et qui renouent aussi bien avec le modèle antique qu'avec les imitations qui en avaient été proposées à la Renaissance.

C'est aussi pour cette raison que nous lirons ces deux pièces à rebours de leur ordre chronologique, et "Athalie" avant "Esher".

授業内容

実施回	内容
-----	----

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Présentation générale 1 : Tragédie française et théâtre religieux. |
| 第2回 | Présentation générale 2 : Le théâtre classique et l'oeuvre de Racine |
| 第3回 | Lecture d'"Athalie". 1 |
| 第4回 | Lecture d'"Athalie". 2 |
| 第5回 | Lecture d'"Athalie". 3 |
| 第6回 | Lecture d'"Athalie". 4 |
| 第7回 | Lecture d'"Athalie". 5 |
| 第8回 | Lecture d'"Athalie". 6 |
| 第9回 | Lecture d'"Athalie". 7 |
| 第10回 | Lecture d'"Athalie". 8 |
| 第11回 | Lecture d'"Athalie". 9 |
| 第12回 | Lecture d'"Athalie". 10 |
| 第13回 | Lecture d'"Athalie". 11 |
| 第14回 | Lecture d'"Athalie". 12 |
| 第15回 | Lecture d'"Athalie". 13 |
| 第16回 | Lecture d'"Athalie". 14 |
| 第17回 | Lecture d'"Athalie". 15 |
| 第18回 | Lecture d'"Athalie". 16 |
| 第19回 | Présentation d'"Esther". |
| 第20回 | Lecture d'"Esther". 1 |
| 第21回 | Lecture d'"Esther". 2 |
| 第22回 | Lecture d'"Esther". 3 |
| 第23回 | Lecture d'"Esther". 4 |
| 第24回 | Lecture d'"Esther". 5 |
| 第25回 | Lecture d'"Esther". 6 |
| 第26回 | Lecture d'"Esther". 7 |

授業計画コメント

Cet emploi du temps est évidemment tout à fait théorique et il est probable que nous consacrerons peut-être un peu plus de cours à la lecture d'"Athalie". Mais, comme l'écrivait Raymond Queneau, le temps n'est-il pas une "matière plastique" ?

授業方法

Le cours sera donné en classe et devant les étudiants rassemblés.

使用言語

Français

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

Aucune préparation particulière n'est exigée. On peut lire le texte par avance mais ce n'est pas obligatoire : de toute façon, j'expliquerai tout ce qui me semble nécessaire et répondrai à toutes les questions qu'on voudra bien me poser.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

La participation, et donc la présence, en classe sont donc essentielles. Les questions des étudiants constituent un moteur indispensable des cours et servent généralement à enrichir la compréhension du texte. Elles sont donc particulièrement bienvenues.

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

Le critère d'évaluation sera différent de celui des étudiants de Licence.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Je répondrai à toutes les remarques et à toutes les questions, et même en japonais s'il le faut.

教科書

Athalie: Le Théâtre de poche, Jean Racine, Le Livre de poche, 1993, 978-2253062288

Esther: Folio Théâtre, Jean Racine, Folio Gallimard, 2007

教科書コメント

Ces références sont données pour que chacun puisse utiliser le même texte mais il va de soi que, si l'on possède déjà un exemplaire des deux textes, il n'est pas nécessaire d'en acheter un nouveau !

履修上の注意

履修者数制限あり。第一回目の授業に必ず出席すること。